



第三回 よろずづくり
谷水 三治さん (吉浜)



▲谷水さん作『鶺鴒い』
(竹細工)

腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介します。

「作品づくりはいつもここでしている。」という自宅横にある工房には、自らが作った作品がズラリ。フクロウや熊などの動物をはじめ、音楽隊や踊りをする人…。材料も竹や木の実、布などあらゆるものを使っています。「なるべく自然にあるものを材料にしているんです。」材料を探しに山へ入ることもしばしば。

もともと製材所で働く職人だった谷水さん。八年ほど前に友人のお宅でカニの竹細工を見て、自分でも作ってみようと思っただけがきっかけなのだとか。それから出かけた折りに変わったものを見つけては題材にしています。「最初は現品と同じものを作り、二回目から自分のアイデアを取り入れてから作る。」と言う作品は次々と増え、今までに一万点以上は作っているそうです。

今後の活動については、「一昔前の農機具を全部自分の手で作ってみたいと思っっているんですよ。以前も足踏みの水車を作ろうとしていたんですけどね。そうやって、昔懐かしい情景を再現することができたらいいですね。」と語っています。

展覧会と行事のご案内

はしちつきょう
特別展<竹橋>時代の竹喬
9月10日(土)～
11月27日(日)
竹喬前期の画業形成を
約120点で紹介する
特別展。

ギャラリートーク
9月10日(土)
13:30～
入館料のみ必要

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

竹喬美術館の光彩 33



ゆうぼえ ひろさわ
夕映 (広沢)
小野竹喬 作
昭和44(1969)年
31.8×36.5cm

「ある日、広沢の池畔に立って愛宕の山を仰ぐと、ちょうどいま夕日が山の線に近づいているところであった。愛宕は深い紺碧色に塗りつぶされ、広沢の池の面は緑、赤、コバルトと横に色線が入りまじって複雑なさまざまなみを立てている。夕日はまだ朱色を帯びてはいないが、池面には既に茜色をうつすら落としている。」

山の影が池面に広がってきた。濃い影の奥に、ほの白く動いているのは、学生らしい二人の漕いでいるボートであった。」

(竹喬のことば)

山が影になって、わずかにその稜線と岸の並木とに光が消え残っている。赤く照らされた雲の色は刻々と移り変わり、水面にそのままの色を映し出す。日が暮れる前の一瞬、ボートの二人は周囲を満たすこの美しさに気づいているのだろうか。

今月の表紙

紙飛行機が千拓の上空に舞って行く。この紙飛行機は、8月14日に開催された「子ども航空教室」で子どもたちが作ったもの。楽しそうな笑顔で、誰の飛行機が一番遠くまで飛ばすか競争していました。

この前には、航空機に関するビデオを見たり、説明を聞いてりして学習。そして、実際にセーナ機に搭乗して空からの眺めを堪能していました。

係から

トップアスリートが集う「晴れの国おかやま国体」まで二ヵ月足らずとなり、民泊の拠点施設をはじめ、市内のあちこちで歓迎の看板が立ち並ぶところになりました。みなさんが主役であり、市民協力を中心に笑顔でお祭り気分を味わっていただくのも盛り上がり、笠岡市を訪れる選手・役員の方々と温かくお迎えする準備が整ってきたようです。

本番では、受け入れチームの応援に力が入ることでしょうが、間もなく発表される岡山県の出場選手として、いろいろな目にも熱い声援をお願いたします。

ファイター!! オー!! (中)



Nakano Mikuhara

発行日/平成17年9月1日
発行/笠岡市役所
編集/企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2114

印刷/アドハウス ☎66-4670

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています